令和2年度 学校関係者評価書(川南町立川南小学校)　4段階評定　4：期待以上　3：ほぼ期待どおり　2：やや期待を下回る　1：改善を要する

項目		評価指標　及び　具体的目標	自己評価	自己評価結果の考察・分析および改善策等	評定	委員の意見
Ⅰ　町民総ぐるみによる教育の推進	1	**学校・家庭・地域が一体となった教育の推進** ⑪地域の物的、人的教育資源を活用した「かわみなみ学」の実施（各学年５回程度） ③家庭読書の習慣化（全児童定着） ⑧保護者との協働による生活リズムの推進（全家庭実施）	3	○「かわみなみ学」はコロナウィルス感染予防のため未実施もあったが、親児会を講師とした5年生の稲作や2年生の芋植え、4年生の福祉体験等、充実した活動ができた。 ○6・10月のファミリー読書週間、あけぼの会による読み聞かせの実施等により、図書館本の貸出冊数が増え、読書活動の充実が図られた。77%の児童が「本をよく読んだ」と答えている。 ○健康生活週間を毎月設定し、意識付けを図った。また、機に応じて校内放送等を活用して啓発を行うことで、児童の生活リズムを整えることができた。「学校のきまりを守れた」は、96%であった。	3．5	○ホームページは良くまとめられていて、子どもたちの感想文もあり、見入ってしまう。 ○コロナ禍の中でも、できる方法を創意工夫して行うことで、子どもたちへのサポートがしっかりと行えている。 ○コロナ禍で自宅に居る時間が増えるため、読書活動の充実に取り組むことは、読書を習慣づけることにもつながり、よいと思う。
	2	**家庭や地域の教育力の向上** ②家庭学習の習慣化（全児童定着） ⑫福祉団体や子育て支援団体等との連携（ケース会議の随時実施） ⑧学級懇談やＰＴＡ家庭教育学級の活性化 ⑪地域団体等と連携した登校・あいさつ運動の実施（年間）		○「家庭学習の手引き」を基に、根気強く指導を継続した。72%の児童が定着したと答えている。 ○児童の特性等に関わる課題点について、特別支援エリアコーディネーターやSSW等の専門機関との連携を図りながら児童の課題解決に努め、数名の児童が改善を図ることができた。今後も連携を図りながら改善に努めていく。 ○「子ども見守り隊連絡会」を、毎月第一火曜日に実施し、意見交換を行った。この中で見守り隊員から、登下校中や休日で気付いた児童の課題点や善い行い等の情報を得て、学校現場で即指導に生かすことができた。		○コロナによる緊急事態宣言で本年度一時自宅待機があったが、その後学校側のしっかりとしたサポートやPTA・地域との連携が図られたことにより、教育だけでなく登校班の安全を守る、地域で子どもたちを育てるという意識につながった。 ○家庭だけでの改善は難しいことでも、専門機関が関わることで早期に改善できると思う。
	3	**地域と共に歩む学校づくり** ●学校運営協議会の熟議を反映した学校運営 ●積極的な情報発信（学校便り、学校ＨＰ）		○コロナの影響で学校運営協議会の回数が減った。アンケート意見を受け止め、学校の活動に取り入れるよう努力する。 ○学校の課題点やよさ、改善策等を盛り込んだ学校便りを定期的に発行することで、保護者への理解と協力を得ることができた。 ○安心メールでは、地域・保護者に素早く正確な情報を伝達し、理解と協力を得ることができた。学校HPでも積極的に情報を発信し、保護者や地域だけでなく幅広くに学校生活の状況や子どもたちの良さ等を伝えることができた。 ●学校と地域の共通目標の設定・実施が不十分。次年度は、SDGsの取組を提案したい。		○コロナ禍で大変だと思うが、応援しています。学校訪問のチャンスが減り残念であった。 ○要件媒体だけでなく、学校HPや安心メールの活用がしっかりと行われており、学校の現状を知ることで地域がどのように対策をすればよいか、次につながるツールとしても活用できていた。 ○学校便りがあることで保護者は学校での取組を知り、安心へとつながる。
Ⅱ生きる基盤を育む教育の推進	1	**確かな学力の定着** ①各種学力調査　前年比５%アップ ①全教科、全職員の授業で電子黒板やタブレットの活用 ①全学年で英語の授業を実施 ①全学年で、学ぶ態度の育成（立腰指導の重視） ③町立図書館のレファレンス機能を生かした読書活動の充実（各学年１回以上）	3	○6年生対象の全国学力・学習状況調査は中止となった。5年生対象のみやざき小学校学習状況調査は12月、全学年対象のCRT検査は1月に実施した。検査結果を分析し、改善策を確実に講じていく。 ○学力向上プロジェクトを4月に各学年で作成し、継続して指導に取り組んでいる。 ○電子黒板はほぼ毎日の授業で全学年授業で活用し、指導力・学力の向上に努めている。本年度中には200台のタブレットが児童に配付される。教師の指導力向上が急務である。 ○毎週水・金曜日に20分の「学びの時間」を設定し、系統的継続的に指導を行うことができ、児童は集中して学習に取り組んでいる。89%の児童が「勉強が分かる」と答えている。 ○司書教諭や町読書担当職員と連携して、様々な本とふれあう機会を児童の与え、充実した読書活動を行うことができた。	3．7	○学びの時間の設定など、学力の定着に努力されていると高く評価したい。 ○コロナ禍で授業に参加できなくなった児童に対し、オンラインで授業に参加できるシステム作りが必要と考える。 ○電子黒板を活用することで、視覚から楽しく学べると感じた。
	2	**豊かな心を育む教育の推進** ④教育相談アンケート（毎月）によるいじめ等の早期発見と継続観察 ⑤えがお推進委員会（毎月）による児童の共通理解と共通実践 ⑥ボランティア活動の推進（毎朝：５・６年） ⑤教職員の人権感覚を育むための研修の充実 ⑤生徒指導の三機能を生かした学級経営の実践 ③「あけぼの会」と連携した読み聞かせの実施（毎月）		○定期的に教育相談やえがお推進委員会を行い、問題行動の未然防止や課題点の共通理解・改善共同実践に努めた。問題行動が発生した場合は、迅速に「報告」「連絡」「相談」を実施。事案によっては内容を整理し、共通理解を図った。また、問題行動を未然に防ぐために、校内放送を活用し啓発した。 ○いじめ事案が数件発生したが、組織的対応により沈静化できている。 ○JRC委員会・5年生のあいさつ運動・6年生の朝のボランティア活動を核として、児童主体の活動を推進し、積極的な行動が見られるようになった。 ○あけぼの会による読み聞かせは、ほぼ予定通り実施できた。77%の児童が「読書が好き」と答えている。また、情緒の安定にもつながっている。		○問題行動の未然防止に組織的対応されていることを高く評価したい。 ○報告、連絡、相談の共通理解は大切だと思う。
	3	**健やかな体を育む教育の推進** ⑨体力向上プランに基づく個や集団に応じた体力づくりを全学年、年間を通して実施 ⑧家庭と連携した食育指導の推進（弁当の日：年３回） ③「早寝、早起き、朝ご飯」の推奨 ⑧全学年での性教育（年３回）、薬物乱用防止教室（６年）の実施 ⑦日常的な安全点検の実施 ⑧う歯の治療率向上（目標65%）		○体力テストは本年度実施できなかった。体力向上プランを作成し、改善が必要な領域への指導を行う。6年生の陸上では外部指導教員を講師として招聘。専門的指導により、町の陸上教室で力を発揮できた。また、3年生のダグラグビーでは、PTA会長を講師として招聘。ラグビーの運動の楽しさを味わいながら運動能力を高めた。 ○昼休みの外遊び励行や持久走発表会を通して、体力向上につながった。 ○コロナの影響により家庭で過ごす時間が増えてきている。望ましい生活週間（特にメディアコントロール）を呼びかけ、定着を図る必要がある。 ○弁当の日は、3学期実施予定。 ○毎月安全点検を実施し、改善が必要なものについては教育委員会へ修理を依頼し、随時改善。 ○う歯の治療率50%（1月現在）。今後も継続して治療を呼びかける。 ●ゲーム依存・SNS依存が顕著な児童・家族が増えてきている。町全体での取組が急務である。		○昼休みの外遊びの励行はとても良いことだと思う。 ○コロナ禍で懸念されているのが体力の低下である。学校での体育の時間だけでなく、昼休みの使い方などを工夫して体力の向上を図ってほしい。 ○コロナの影響もあり、外で遊ぶ子どもの姿が減っていると思う。体力作りは一層大切な時間となるのではないか。

	4	**特別支援教育や人権教育の推進** ⑤職員研修の実施（年３回程度） ⑤年間指導計画に基づく各学級での授業実践 ⑤参観日での授業公開（９月） ⑤７月「命の教育週間」での啓発活動		○4月に特別支援教育研修を実施し、個々の児童の特性に関して共通理解を図り、個に応じた対応ができた。 ○個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、意図的・系統的な指導・支援が図られている。 ○人権教育では、コロナウィルス感染による偏見や差別等の研修会を夏期休業中に実施。その内容を授業で行うことで、児童の人権意識を高めるようにした。今後も継続して行うことで身近に感染者が出た場合に備える。		○人権教育は大変だと思うが、しっかりとお願いしたい。 ○人権、心の教育、薬害、メディアコントロールなど、積極的に先生や児童、保護者が学ぶ姿勢は高く評価できる。このような内容に関する講演をテレワークを使ってもっと多くの方が見られる環境作りも必要と思う。 ○コロナ感染者への偏見は、しばらく深刻な問題となるのではないか。
	5	**ＩＣＴ教育や国際理解教育の推進** ①デジタル教科書の有効活用に関しての研修の実施（年間） ①英語学習の全学年での実施（年間）		○職員向けのプログラミング研修を夏期休業中に実施、「親子プログラミング教室」を11月に実施した。プログラミング思考の大切さや機能性のよさを体感した。約50名参加があり、関心の高さが伺えた。 ○外国語専科を中心に、英語学習の充実を図ることができた。ICTを活用した外国語授業研修を2回実施することより、外国語学習とICT活用の在り方を学ぶことができた。		○新しい教科道徳や外国語と教科が増え、教育現場は大変な思いをしている。 ○時代は確実にICTに移行し、コロナ禍での利便性は高く評価されている。学校での授業でタブレット活用がされている中、間違った取り扱いのないように気をつけていくことが重要と思える。 ○ALTや外国語専科教員の配置で、もっと活きた英語を子どもたちに体験させる工夫があるとよいと思う。授業以外に通りすがりの挨拶に使ったり、給食の時間に英会話の放送を流したりすると英語力向上につながると思う。 ○外国語を楽しく学んでいる児童を見て、やはり早い時期からの教育は大切だと感じた。
Ⅲ 自立した社会人、職業人を育む教育の推進	1	**ふるさと川南に学び、誇りや愛着を育てる教育の推進** ⑪「かわみなみ学」の推進（再掲載） ⑥ボランティア活動、あいさつ運動の推進（常時）	3	○朝の放送時に定期的に町歌を流したり、午前中開催の秋季大運動会でプログラム１番に川小音頭を行ったりするなど、川南に愛着をもてるための取組を実施した。「ふるさと川南が好きだ」は90%である。 ○6年生により朝のボランティア活動や5年生によるあいさつ運動を毎朝実施。下級生に手本となる行動を示すことができ、学校に貢献する態度も育ってきている。 ●学んだことを生活に生かす取組が不十分。次年度は、SDGsに取り組んでいく。	3．6	○町歌は今や小・中学生がみんな歌えるので、すばらしいことだと思う。 ○川南について、子どもたちが自信をもってくれている部分が増えていくといいと思う。6年生や5年生が朝から学校をきれいにし、挨拶で盛り上げてくれる姿は素晴らしいと思う。 ○地元愛を育むことで、川南へ貢献する人になっていくと思う。
	2	**キャリア教育の推進** ⑩幼・保・小・中連携の推進（情報共有の場の創出） ⑪キャリア教育の視点に立った諸活動の年間指導計画の見直し（年間） ⑪「よのなか教室」の実施（11月）		○幼保・小・中連携は、年間計画に基づいて実施できた。しかし、当初予定していたスタート・アプローチカリキュラムを活用した連携にまでは至っていない。 ○2学期11月の「ふれあい参観日」で親子のふれあい体験及び地域人材を生かした「よのなか教室」を実施することができた。このことにより、ふれあった人々へ感謝の気持ちを伝えたり、今後の自分の生き方を考えたりすることで、児童のキャリア形成につながった。「将来の目標をもっている」は74%、「川南や社会の役に立ちたい」は76%である。		○「ふれあい参観日」の世の中教室の取組を高く評価したい。 ○地域の人の経験が、児童の将来に役立つことは素晴らしいと思う。
Ⅳ 魅力ある教育を支える体制や環境の整備、充実	1	**教職員の資質向上** ①重点支援校指定を生かした授業研修の実施（年間） ①初期研や校内研修時のメンターチームを基盤にしたＯＪＴの推進（年間） ●県内外研修への積極的参加 ●服務規律の徹底（年２回以上のコンプライアンス研修と適時啓発）	2	○メンターチームを5グループ設定し、年間を通して2回の提案授業や相互参観を実施し、授業力向上を図ることができた。 ○県内外の授業研修会等への参加は、コロナの影響により、オンライン会議等を活用した。 ○コンプライアンス研修では、チェックシートで自身の行動を振り返ったり、事例をもとに協議したりすることで意識の向上を図った。現段階で問題なし。2学期は、事例をもとにガイドライン遵守の重要性等について研修を実施した。 ○次年度は、宮崎大学と連携して、授業力向上に努めていく。	3．2	○授業力向上の努力を高く評価したい。 ○他県のニュースで、教員の児童への犯罪行為が出るとがっかりしてしまうが、本校の先生方を見るとそのようなことは全く感じない高い資質をもち合わせていると思う。これからもさらなる向上を目指していただきたい。 ○コロナ禍での研修は、大変だと思う。教職員の方々の努力で先生方の資質は向上していると思う。
	2	**防災教育の推進** ⑦自他の命を守る防災訓練の実施（年間） ⑦危機管理マニュアルの常時見直し（年間） ⑦ＰＴＡや地域組織と連携した校内外の安全点検の実施（年間）		○保護者参加型の引き渡し訓練を12月に行い、課題点や改善策を協議するよい機会となった。 ○年度当初に避難経路を確認。風水害に関する模擬避難訓練を実施。廊下歩行などについて常時指導を徹底している。 ○6月に全学年、交通安全教室を実施。学期はじめにPTA登校指導を実施。交通事故防止の意識を高めることができた。2学期に自転車による交通事故の事案も出ているので、今後も継続してヘルメット着用や交通安全の啓発を図る。 ○11月に東児湯消防組合の協力のもと、火災に関する避難訓練を実施。防災への意識を高めた。		○450名近い児童がいる中での引き渡し訓練は大変だった思うが、実施されたことを高く評価したい。 ○防災に対する取組で初めての試み「保護者参加型の引き渡し訓練」が行われたことは、有意義であったと思う。逆に、アフタースクールの子どもたちの交通指導は、学校だけでなく、家庭・地域において交通安全と命の尊さへの意識を高める工夫が必要と考える。 ○防災意識をもつことは、命を守る上で重要なので、引き続きお願いしたい。